



sound & handcraft theater

Syn -01 Why keep making

会期：2025 年 11 月 1 日 (土) ～ 3 日 (月・祝)

会場：京都文化博物館 別館ホール 京都府京都市中京区東片町 6 2 3 - 1

sound & handcraft theater

Syn

01 Why keep making

WONDER FULL LIFE/大脇千加子とアーティスト森山直太郎の共同企画として、2025年11月1日(土)～3日(月)の期間、京都文化博物館を会場に sound & handcraft theater 「Syn - 01 Why keep making」と題した舞台&展覧会を開催します。

消えゆく素材や手しごとに目を向けながら、目指すのは小さな循環。時や場所、専門領域を超えて各地のつくり手や表現者たちとの巡り合わせを独自の手法でつづり、ファッションとアートを軸に創作を続ける大脇千加子が主宰する WONDER FULL LIFE。

境界のない世界を追い求め、日々生きる中で見過ごしてしまいがちな些細な美しいできごとに意識を及ぼす。無自覚に心に作用する感覚や感情をすくいあげ、言葉につづり、音楽にのせ、歌うことを通して多くの人々を魅了してきたアーティスト森山直太郎。

”音楽”と”ものづくり”、異なる領域で活動する二人のもとへ、時と縁によって巡り届いた布や古楽器。その巡り合わせをきっかけに、彼らの描く景色をともに見つめるつくり手や表現者の仲間とともに、音、もの、言葉を織り重ねた実験的な創作がはじまりました。

形をもたない音と、言葉をもたないモノが

調和したときに立ち現れる新たな景色

Syn — 感覚を重ね、共に考える。

Syn (※1) プロジェクトは、”音”と”ものづくり”を軸に、各々が持つ技や力や思考を交え、深淵に眠る本質的な感覚を呼び覚ましていく。さまざまな領域で活動する表現者やつくり手が、同じ景色を異なる目線から見つめ直し、その過程を複層的に重ね合わせながら、新たな表現を導き出す実験的なプロジェクトです。

Synの第一弾となる「Syn - 01 Why keep making」では、人がものを作り、伝えるという行為に焦点を当てます。行き場を失った布。音も出せずに眠っていた楽器。時代と共に消えゆく伝統技。異国の片隅で見つけた職人のこだわり。大切な人の記憶を秘めた品。人から人へ、手から手へと伝わり残る物事が、誰しもの日常の傍らにはあります。確かにそこにあるのに、意識が向けられなくなってしまったもの、手しごとの情景やものづくりの思想を紐解いていくと、そこにあるのは決して工芸的な創作だけではありません。暮らしの様子や人々の語り、自然の恵みや土地の風習、季節の巡りや光の移ろいなど、決してかたちだけでは表しきれない事象も密接に関わっています。

「Syn - 01 Why keep making」は、”舞台”という総合芸術の場を用いて、手しごとに音楽や言葉を交えながら、可視化されない感覚や状況を取り込み、より豊かな表現へと拡張していく試みです。彼らのもとへ巡り届いたさまざまな布や古楽器は、つくり手や表現者たちによって息吹が吹き込まれ、オブジェや衣服、楽器など新たな存在へと転化。それぞれのものづくりの背景にあるストーリーとともに、再び生まれたカタチが会場を彩ります。アーティストの歌声、古楽器から奏でられる音、記憶の断片を紡ぐ言葉、手を動かし続けるつくり手。音、もの、言葉が折り重なり、複数のシーンが同軸で進行するオムニバス形式の舞台のように、タイミングや視点によって、場面がさまざまに変化してきます。

(※1) Syn：ギリシャ語を語源とする言葉で、「同時に、ともに、一緒に」などを示す接頭辞。

派生する英語の言葉に、synchronize, synthesis, syndicate, syndrome, synthesis, sympathy, symphony などがある。

森山直太朗は音楽と舞台の総合ディレクション、WONDER FULL LIFE/ 大脇千加子はものづくりのディレクションとして、表現者やつくり手の仲間とともに、舞台を作り上げていきます。

<参加アーティスト & アルチザン>

- ・麻生要一郎
- ・ARTISAN PROJECT
- ・大脇千加子 / WONDER FULL LIFE
- ・坂本美雨
- ・DAISY BALLOON
- ・PIANOPIA
- ・平井真美子
- ・森山直太朗

<ディレクション>

- ・森山直太朗
- ・大脇千加子 / WONDER FULL LIFE

STORY

1. はじまりの白い布

森山直太朗がアーティストとして歩み、積み重ねてきた20年という時間の中で生まれたツアーTシャツの在庫とよばれる資産が、反毛（はんもう）技術によって生まれ変わった白い布。その白い布を受け渡された大脇千加子は、自身の活動にも重ね合わせ、製造・流通・販売と一連の流れのなかで《いま、なぜつくるのか?》という原点に立ち戻り、あらためてものづくりの在り方に向き合う。

本舞台で「はじまりの白い布」は、舞台装飾の MATERIAL や衣装として用いられます。舞台装飾を終えた布は、再び大脇の元へ渡り、以前森山直太朗の演奏会で飾られた植物から抽出した色で染色。WONDER FULL LIFE のリミテッドコレクションとして、中世ヨーロッパの古着からインスパイアされたシャツへとカタチを変え、誰かの元へ巡っていきます。

*後日 WONDER FULL LIFE より販売予定。



2. 時を織るボシャルウィット

大脇千加子と森山直太朗との出会いのきっかけを作った、歌手・坂本美雨と執筆家・麻生要一郎。彼らの家族から受け継いだ着物は、海を渡り、モロッコのフェズで設立されたARTISAN PROJECT によって、モロッコの伝統的な織物、ボシャルウィット（*1）に生まれ変わります。また、着物に加え森山直太朗のツアーTシャツの在庫も織り交ぜ Syn プロジェクトを象徴するような、文化を映し記憶を織りなす大きなボシャルウィットを制作しています。

森山、麻生は、大脇とともに素材となるTシャツや着物を持参し、モロッコへ渡り、ARTISAN PROJECT・代表ニナ・モハマドや職人の女性たちとものづくりの現場で特別な時間を過ごしました。旅の途中で共に眺めた風景、自然の中にある造形を過去と未来を繋げるように織り込んだ作品を制作。本舞台では、アーティストが奏でる音楽とともに、象徴となるボシャルウィットに大脇自身で手を加え、会期3日間かけて形を変化させていく公開制作を予定しています。

（*1）ボシャルウィット（Boucherouite）

古着や制作過程ででてくる糸くずなど、手元にある素材など限られた資源という制約の中で、手仕事で織られたラグなどの織物。

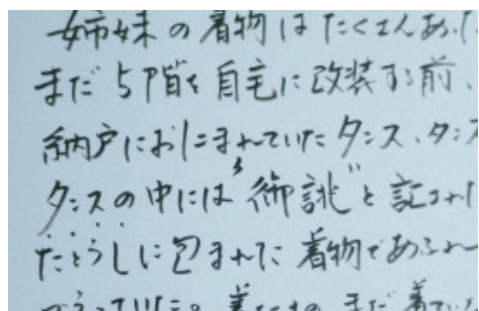


ことば

3. バブーシュの言伝

時を経て WONDER FULL LIFE に手渡された麻生要一郎の家族の歴史を纏った着物や帯は、大脇の手によって丁寧に解体され異国の履物、バブーシュに仕立て直されます。大脇は、着物や帯に織り込まれた装飾の美しさはもとより、その一枚一枚に内包される当時の情景や職人のこだわりなど、目に見えないたくさんの物語にも魅了されるといいます。寡黙で雄弁な着物帯。帯が纏う歴史や物語がエッセンスとなり異国の履物バブーシュの新たな魅力となり次の使い手に継がれていくことを願っています。

本舞台では、バブーシュとともに麻生要一郎が、家族から譲り受けた着物や帯から映し出される記憶の断片を紡いだ言葉を展示します。



4. 記憶の欠片を紡ぐ像

「感覚と質」をテーマに掲げ、他者との本質的な融合に眼差しを向けながら主にバルーンで構成した作品を制作するアーティストユニットのデイジーバルーン。彼らによって繋がれる記憶の像。空気で膨らませるバルーンと同じように、永遠には残せない古楽器の修復の際に出てくるピアノの弦やピンなどのパーツや古い布に目を向けて、過去に存在した時間を残す実験を重ねていきます。

本舞台では、彼らが表現に用いてきた”バルーンシェル”という技法で、役割を終えた古楽器の廃材や WONDER FULL LIFE の手元に巡ってきた素材の端材でバルーンを覆い、凝固させてその形状を記憶させるオブジェを制作に取り組みます。

協力：タカギクラヴィア株式会社



5. 永遠を奏でる古楽器

長い間眠っていたアンティークピアノや足踏みオルガンなど、歴史を刻んだ鍵盤楽器。これらの古楽器に耳を傾けながら時を超えて対話し、修復を行う PIANOPIA は、古楽器が生まれた当時の情景が浮かぶ個性豊かな響きを今に届けています。

本舞台に向け、19世紀末に誕生した自動演奏ピアノ装置「PIANOLA（ピアノラ）」の修復に取り組んでいる。「PIANOLA」は、電気を一切使わず、ペダルを踏み、鞆（ふいご）で空気を送り、巻紙を読み取りピアノを奏でる。まるで時代の音を封じ込めた「音のタイムマシン」のような楽器です。

この機械を使い、大脇千加子と PIANOPIA の対話から生まれた「カタチ」が奏でる音への好奇心。

自然界が織りなす図形をロールに写し取り、その図形が奏でる音に耳を澄ませる。そして、その音に音楽家・平井真美子が呼吸を合わせるように、さまざまな音を重ねていく。即興的で実験的な演奏が、修復の先にある「音の未来」の可能性を探ります。



麻生要一郎 (あそうよういちろう)

執筆家・料理家として、何気ない日常における食や暮らしの感覚を丁寧に拾い上げ、語り継いでいる。近著に『僕が食べてきた思い出、忘れられない味 私的な店案内 22』『365 僕のたべもの日記』、ウェブコラム「酸いも甘いも」「マーマレードの夕焼け」など。IG: @yoichiro_aso (https://www.instagram.com/yoichiro_aso/)

ARTISAN PROJECT (アルチザンプロジェクト)

代表であるパレスチナ系アメリカ人のテキスタイルデザイナー、ニナ・モハマドを中心に、モロッコ各地に残る手織物にかかわる女性たちをつなぎ、育てていくプロジェクト。技術や伝統のみならず、そこに潜む思想や精神性、人々の暮らし、未来のビジョンも絡みとりながら、芸術性の高いものづくりを創出している。
<https://www.artisanprojectinc.com>

大脇千加子 / WONDER FULL LIFE (おおわきちかこ / ワンダフルライフ)

WONDER FULL LIFE・主宰。ISSEY MIYAKE を経て、自身のファッションブランドを立ち上げた後、2016 年〈WONDER FULL LIFE〉をスタート。染、陶芸、真鍮、漆、織物など、国内外の作り手たちと協働したものづくりをはじめ、イベントやライブなど、領域を横断した創作活動を行う。<https://www.wonderfullife.link>

坂本美雨 (さかもとみう)

音楽一家に生まれ、東京とニューヨークに育つ。1997 年に歌手デビュー。音楽活動のほか、舞台や執筆、ナレーション、動物愛護など、多岐に活動。現在はラジオ「ディアフレンズ」パーソナリティ、NHK「日曜美術館」司会なども務めている。アニバーサリーイヤーの今年、25 周年ツアーを開催。「birds fly」の収録が森山直太朗、平井真美子、大脇千加子の出会いのきっかけとなる。<https://www.miuskmt.com>

DAISY BALLOON (デイジーバルーン)

バルーンアーティストの細貝里枝とアートディレクター／グラフィックデザイナーの河田孝志によるユニット。コンセプトメイキングから作品製作まで繊細かつ緻密なプロセスを構築。従来のバルーンアートの枠組みに縛られない、奥行きのあるクリエーションを手掛ける。<https://daisyballoon.com>

PIANOPIA (ピアノピア)

アンティークピアノと足踏みオルガンの専門店。ヨーロッパ、アメリカ、日本など古く希少な楽器を修復し、その魅力を引き出して、楽器のいのちをつなぐ活動を続けている。また、アンティーク楽器を使った音楽会も主催する。
https://www.instagram.com/atelier_pianopia/

平井真美子 (ひらいまみこ)

作曲家、ピアニストとして、楽曲提供から作曲まで幅広い活動を行う。主な作品に、テレビ「過保護のカホコ」「神様のカルテ」「にっぽん縦断こころ旅」、坂本美雨「birds fly」など。古楽器や日常に潜む音を交えた創作も積極的に行い、2024 年に「とあるひ記録集 a day」を発表。
<https://hirai-mamiko.com>

森山直太朗 (もりやまなおたろう)

フォークシンガー。2002 年にメジャーデビュー。清らかさと力強さを合わせ持つ声で心に響く楽曲を歌い続ける。俳優としての活動も行い『心の傷の癒すということ』『エール』、映画『夏の砂の上』に出演。今秋から新しい 2 枚のアルバムを携え、2 つの異なる世界を交錯する全国ツアーを開始する。
<https://naotaro.com>

PROGRAM & SCHEDULE

本舞台は、会期3日間を5つのプログラムで構成しています。Synがつくる世界観の中で参加アーティストによるライブ演奏をじっくりと体験いただくプログラムとともに、デイトタイムは、Synプロジェクトに関わるつくり手や表現者たちが語らうダイアログ、突然響き渡る古楽器の音や歌声、公開制作など、長い時間をかけて展示やパフォーマンスをシームレスにお楽しみいただくさまざまな仕掛けも予定しております。

A：2025年11月1日（土）14:00-17:00 Exhibition + Dialogue

Dialogue 出演：森山直太郎・大脇千加子／WONDER FULL LIFE・麻生要一郎

B：2025年11月1日（土）18:00-20:00 Exhibition + Live

Live 出演：森山直太郎

C：2025年11月2日（日）11:00-17:00 Exhibition + Dialogue

Dialogue 出演：森山直太郎・坂本美雨・大脇千加子／WONDER FULL LIFE・麻生要一郎・ARTISAN PROJECT

D：2025年11月2日（日）18:00-20:00 Exhibition + Live

Live 出演：坂本美雨・森山直太郎

E：2025年11月3日（月）11:00-17:00 Exhibition + Dialogue + Live

Dialogue & Live 出演：平井真美子・大脇千加子／WONDER FULL LIFE・PIANOPIA・DAISY BALLOON

EVENT OUTLINE

会期： 2025年 11月1日（土）、2日（日）、3日（月・祝）

会場： 京都文化博物館 別館ホール 京都府京都市中京区東片町6 2 3 - 1

チケット：9月4日（木）より発売スタート

11月1日 A 6800円 / B 9000円 /

11月2日 C 6800円 / D 9000円 /

11月3日 E 6800円

*チケット発売に先駆けて8月中旬よりチケット購入引き換え券を発行する予定です。

詳細はオフィシャルインスタグラムをご確認ください。

ライブポケット：https://t.livepocket.jp/t/syn01_2025

Instagram: @syn_theater_project

STAFF

主催・企画・ディレクション： 大脇千加子 /WONDER FULL LIFE
森山直太郎

企画・プロジェクト構成： 川村美帆 / daily press

会場構成・演出： 遠藤 豊 / ルフトツーク

音響： 東 岳志

アートディレクション： 吉田昌平 / 白い立体

撮影： 前 康輔

編集： 猪飼尚司

協力： 松田貴子 / SETSUNA INTERNATIONAL

制作： 島田達也 / night cruising

チェルシー舞花

PRESS CONTACT

本件に関するご質問、取材に関するお問い合わせは下記までご連絡下さい。

daily press 川村 美帆 | mihokawamura@dailypress.org

daily press 竹形 尚子 | naotakegata@dailypress.org